

なぜ、弁護士が
ドキュメンタリー映画を
作らねばならなかったのか？

弁護士 河合弘之 初監督作品

日本と原発

私たちは原発で幸せですか？

監督／河合弘之 (弁護士)

構成・監修／海渡雄一 (弁護士)

音楽／新垣 隆
(テーマ曲書き下ろし)

映画 「日本と原発」

製作・監督：河合弘之 構成・監修：海渡雄一 制作協力：木村結 音楽：新垣隆
脚本・編集・監督補：拝身風太郎 制作：Kプロジェクト

■お話をうかがった方々：

青木秀樹 アナトリー・チュマク 飯田哲也 エフゲーニャ・ステパノフ
大島堅一 川口登 小出裕章 コンスタンティン・ロガノフスキー
古賀茂明 鈴木大介 高野仁久 田中三彦 馬場有 (敬称略)

※この映画は、原発についての報道・広報に対する批判的検討をも目的としています。

私たちは原発で幸せですか？

写真：浪江町 / 2014.09月撮影 ©Kプロジェクト

これ1本で原発を取り巻くすべての問題を提起します。
映画鑑賞後、ご自身でご判断ください。

有名企業を取り巻く多くの裁判で勝ち続け
辣腕弁護士と呼ばれた河合弘之。

しかし、河合の人生後半戦の一大事業と位置付けた原発訴訟は、
負け続けだった。

何年続けても、どんなに方法論を工夫しても、勝てなかった。
逆襲弁護士と呼ばれるタフな河合だが、
負け続ける原発訴訟にその闘志は弱まっていた。

そして、2011年3月11日。
東京電力福島第一原子力発電所で
原子力発電史上最悪の事故が起きた。
河合は決心した。「絶対にあきらめない」。

これは、弁護士河合弘之と盟友弁護士海渡雄一、訴訟を共に闘
う木村結の3人が、多くの関係者、有識者にインタビュー取材
を行い、現地での情報収集や報道資料等を基に、事故に巻き込
まれた人々の苦しみ、原発事故を引き起こした背景、改善され
ない規制基準、エネルギー政策のウソと真実を追求したドキュ
メンタリーである。

「裁判はたったひとりでも正義をかけて闘える民主主義社会の
安全弁みたいなものだ。だから、僕はひとりでも闘う。でも、
それだけじゃ、みんなに伝わらない。ひとりでも多くの人に真
実を伝えるには、やはり、映画しかない」(河合弘之)。



詳しくはwebで <http://www.nihontogenatsu.com>

日時：7月10日(金)

第1回上映 10:00~12:15 上映後、監修：海渡雄一さんのお話あり

第2回上映 19:00~21:15

場所：ひの煉瓦ホール(市民会館)小ホール

料金：前売り 大人 800円 小・中・高校生 500円 当日 1000円

※5月よりチケット販売予定

主催：「日本と原発」上映日野実行委員会

問合せ先：0710genatsu.hino@gmail.com